

 <p>Viet Nam</p>	学校名：埼玉県立和光国際高等学校	
	氏名：木村 奈津子	● 実践教科等：現代文B ● 時間数：3時間 ● 対象生徒：高校2年 ● 対象人数：40人×3クラス
	[担当教科：国語科]	

1 単元名

「グローバル市民」養成講座 ～グローバルな視野で多角的・批判的に思考する～

2 単元の目標

○グローバル化の進展する地球市民として、地球規模の課題を自分事としてとらえ、解決しようとする。

【多面的・総合的に考える力】【進んで参加する態度】

○他者との意見交換や話し合い活動を通じて、問題を解決しようとする姿勢を身につける。

【コミュニケーションを行う力】【他者と協力する態度】

3 単元の指導について

(1)教材観

本単元を通して、生徒に付けたい力は、高等学校学習指導要領国語(平成21年)の「文章を読んで批評することを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりする力」(「現代文B」3内容 指導事項ウ)である。「戦争の〈不可能性〉」は、西谷修『戦争論』より抜粋された教材であり、加速度的な世界化によって生ずるグローバル化する世界の「影」の部分にスポットを当てたものと言える。読解後に、グローバルとどのように向き合い、どのようにして持続可能な社会を築いていくか、を考えさせたい教材である。

(2)生徒観

本校は、「国際社会の中で必要とされるグローバルリーダーの育成」を目指す学校像とし、様々な教育活動を行っている。海外経験のある生徒も在籍している。対象生徒は、普通科人文クラスの生徒40名(男子15名、女子25名)である。成績上位層も下位層も少ない、中位に学力が収斂しているクラスである。国際的な事象に関心がある一方で、物事を異なる角度から考えること、正解が定まっていない問いに自分なりの考えをまとめることを不得手とする生徒も少なくない。

本校の School Identity では、「地球的視野に立って、主体的に行動するために必要と考えられる態度・能力の基礎を育成」を掲げているが、「地球的視野」に立って物事を捉えらるとは具体的にどのようなことか、「主体的な行動」に繋がる態度・能力をどのような術を使えば育成できるか、未知数であった。本実践は、当該生徒がシンガポール修学旅行直前の授業ということもあり、観光客の視点からだけでなく、現地の市民、企業、生物の立場など多様な視点に立って、物事を多面的に捉えられるような目を育てたい。また、評論文で提示された視点を使って、少数民族の生活などローカルな箇所に入流するグローバル化を捉えさせ、その光と影の両面に気づかせることで、誰一人取り残さない持続可能な社会を考えさせるきっかけとしたい。

(3)指導観

生徒が地球市民としてグローバルイシューを捉え、対立と合意形成など多様な側面から世界の課題と現状、論点を把握し、自己の問題として主体的に捉え、判断し、実践できる力を育成したい。どのような結論が出たか、ということよりも、どのように結論を導き出したのか、そのプロセスに着目したい。

正解が定まっていない問いに粘り強く向き合い、他者の意見を聞くことで、自己の考えを一層深めるような経験を期待するとともに、海外に足を踏み入れることが「グローバル」ではなく、想像力を鍛え、ど

のように異なる他者・社会と関わり生きるか、主体的に自分と世界をつなげる思考を育ててほしい。

4 評価規準

観点	関心・意欲・態度	思考・表現・判断	技能	知識・理解
評価規準	グローバル社会が直面する課題について考え、国際協力に対する関心を持ち、意欲的に授業に参加している。	課題の解決策を考案し、他者と意見交流をすることで、自身の考えを再構築している。	様々な立場や価値対立を踏まえ、自分の意見を書くことができる。	グローバル化によってもたらされる恩恵や影響について理解を深める。
評価方法	行動の観察【班】・発表の観察【個人】・ワークシートの記述の確認【個人】			

5 単元の構成

時限	小単元名	学習のねらい	授業内容
1	グローバル化 × 戦争	・既習単元「戦争の〈不可能性〉」における筆者の主張を確認し、内容を整理し、グローバル化する社会の現状と照らし合わせる。	・写真「安全への逃避」を用い、ベトナム戦争が世界戦争の一環として、国民を巻き込み泥沼化していったことを読み取る。 ・新聞記事「清水建設の枯葉剤土壌汚染洗浄技術」、動画「ベトナムのインタビュー」を踏まえ、戦争が人間の生存・成長、社会の成長・存続を脅かし、国家を超えて禍根を残している現状を知る。
2	グローバル化 × 観光	・「グローバル市民」とは、どのような資質・能力を備えた人か、検討する。 ・観光産業における課題を捉えさせ、グローバル化の光と影について理解する。	・グローバル化の概念を知る。 ・観光地化を巡るジレンマを、村長/長老/伝統芸能の踊り子の三役の立場でロールプレイングをする。価値対立を理解し、持続可能な社会の視点で課題解決をする。 ・価値対立を超えて、今後観光地化をどうすべきか、班ごとに意見をまとめる。
3 本時	グローバル化 × SDGs	・各班の課題解決案の発表を聞き、自己の視野を広げ、多角的な思考を獲得する。 ・SDGsについて理解する。 ・「グローバル市民」とはどのような資質・能力を備えた人間か、再検討する。	・価値対立に対して、どのような打開策を考えたか、思考プロセスを発表する。 ・「誰一人残さない」「持続可能な社会」という語句を知り、地球規模の諸課題が日本の社会問題と密接に関連することに気づく。 ・「グローバル市民」とは、どのような資質・能力を備える人間か、記入する。

ロールプレイングでの各役割の立場

「村長」= 観光地化に肯定的 → 伝統文化の発信 / 安定収入 / 所得上昇 / 教育への関心

「長老」= 観光地化に否定的 → 環境保護 / 農業の衰退 / 村内の所得格差 / 若者の流出

「踊り子」= 観光地化の恩恵を享受 → 現金収入のため隣村から出稼ぎ / 文化継承の意識は薄い

6 授業事例の紹介

小単元名 【 グローバルな市民として生きるとは？ 】

(1) 指導案

(ア)実施日時 10月25日(木) 第1時限 8:45~9:40

(イ)実施会場 2年5組教室 (3階)

(ウ)本時の目標

- ・各班の課題解決について多角的に理解を深め、自身の考え方に生かそうとしている。
- ・印象に残った言葉を取り入れながら、「グローバル市民」について意見を再構成している。

(エ) 指導のポイント

- ・ロールプレイングを用いて、生徒同士の対話を設定し、自己の意見を重層的にする。
- ・「グローバル市民」についてどのような人物か、学習前後の考えの変容に気づかせる。

(オ) 本時の展開

過程・時間	指導内容	学習活動	指導形態	指導上の留意点	評価 (評価規準・評価方法)
導入 5分	1. 本時の目標を確認する。	・学習の流れ、発表順を知る。	一斉	・前時の内容の確認。	
「少数民族村落において、今後の観光地化をどうすべきか」 解決案を発表しよう。					
展開 I 20分	2. 各班の課題解決案の骨子を発表する。	<p>・「少数民族村落において、今後の観光地化について、どうすべきか？」1～12班の解決案を発表する。</p> <p>※以下の二点に留意して、発表させる。</p> <p>① 班の意見、何に配慮をして解決案を考えたか、話し合いのプロセスを説明すること。</p> <p>② 依然として残っている課題・困難も説明すること。</p>	一斉	<p>・聴衆は、解決案の要点とともに疑問点や課題を書き留める。</p>	<p>・聴衆に向けてわかりやすい説明をしようとしている。 【発表の観察】</p> <p>・他班の意見をメモしている。 【行動の観察】</p>
展開 II 15分	3. SDGsについて知る。	・SDGsの理念と、17の目標について理解する。	一斉	<p>・SDGsロゴプリントを配布。</p> <p>・「誰一人残さない」「持続可能」な視点であることを強調する。</p>	<p>【写真】SDGsロゴ</p> 
	4. 各班の解決案とSDGsの関係を検討する。	・自分の班の解決案は、SDGsの17の目標のうち、どの視点を重視し、どの視点が不足していたか、班で意見を共有する。	班	・全員が理由を含め意見を言えるよう促す。	<p>・班の解決案とSDGsとの関連を見出し、意見を言うことができる。 【行動の観察】</p>
まとめ 15分	「グローバル市民」とはどのような人物か、再考しよう。				
	5. 「グローバル市民」とはどのような資質・能力を備えた人か、再構成する。	<p>・「グローバル市民」とはどのような人か、意見を述べ、根拠を200字以内で記述する。</p>	個人	<p>・他者との意見交流を踏まえ、自己の学習前後の変容に向き合って意見を書かせる。</p>	<p>・自分の意見を適切な表現でまとめる。 【記述の確認】</p>
	6. 本時の振り返りをする。	<p>・ペアで相互に発表をする。</p> <p>・その後、5名程度発表する。</p> <p>・学習の感想を記述する。</p>	<p>ペア 一斉</p> <p>個人</p>	<p>【写真】ワークシート</p> 	

(2) 授業の振り返り

〈良かった点〉

- ・一筋縄に解決できない課題に対しても、よりよい解決策を創り出すために、生徒自身で意見を活発にやり取りすることができた。また、立場の異なる三者の価値観を尊重し合う姿勢が伺えた。
- ・各班で、どの観点を重視するか異なり、解決策も十人十色だった。同じ課題に対して、様々な解決方法があると気づき、意見の多様性を楽しみ、他者から考えから刺激を受ける生徒が多かった。

〈改善点〉

- ・1時間で実施するには学習内容が多かった。意見を共有する時間、個人で考えを深める時間を十分に取れなかった。教材を精選して生徒の気づきや思考を促す授業を展開したい。
- ・話し合いの最中に、教師に助言を求めたり、話し合いが停滞してしまう班が見受けられた。班の編成の仕方も考慮すべきだった。
- ・生徒の発表の仕方が単調で、原稿を読むことが中心になってしまった。指導が必要だった。

(3) 使用教材

- ・「戦争の〈不可能性〉」 西谷修、(1998) 〈三省堂『精選現代文B 改訂版』収録〉

【写真1】高床式倉庫と稲作



【写真2】観光客向け看板



【写真3】伝統舞踊の踊り子



【写真4】授業の様子



【資料1】ロールプレイングの役割カード (一部抜粋)

役割カードA 村長 (男性・50歳)

M村は、観光業を始めたことでみるみるうちに生活が向上したよ。高床式住居、伝統的な食文化のスチームライスや伝統的な衣装・舞踊などの魅力を伝えられるような観光業を15年前から始めたんだ。以前は、タケノコ栽培や稲作など農業だけで、気象条件に経済が左右されることがあって、安定した収入を得られなかったんだ。でも、この地区で観光がうまくいったおかげで、村の所得は次第に上昇していて、そのおかげで農業もやりやすくなった。子どもたちが学校に行きやすくなった。だが、まだ都市部に比べると収入が少ない。そのため、村の若い女性は日中に都市部へ工場に出稼ぎに出ているんだ。もっと多くの観光客に来てもらえるように魅力を伝え、経済的に成長したい。

(4) 参考資料等

- ・写真「安全への逃避」 沢田教一
- ・DVD「映像の世紀 第9集ベトナムの衝撃」 NHK、(1995)
- ・動画 グエン・ベトさんのインタビュー (2018/8/14 撮影)
- ・写真 ベトナム ホアビン省ムオン族モー村 【写真1~3】 (2018/8/11 撮影)
- ・記事「清水建設枯れ葉剤洗浄プラント ベトナム戦争で汚染、現地で」『日本経済新聞』(2018/7/6)
- ・ウェブサイト「SDGs のロゴ」 国連広報センター、〈<http://www.unic.or.jp>〉
- ・『グローバル時代の「開発」を考える—世界と関わり、共に生きるための7つのヒント』西あい、明石書店、(2007)
- ・『「持続可能な開発目標」を伝える先生のためのガイド』日本ユニセフ協会、(2017)
- ・『SDGs と開発教育—持続可能な開発目標のための学び』田中治彦他、学文社、(2016)

7 単元をととした生徒の反応/変容 ※以下、生徒の記述を一部抜粋して紹介する。

【問1】 今後の観光地化について、どうすべきか。

【案1】観光地化を推進 村全体の観光地化。ホームステイ・農業体験をオプションで実施。SNS で情報発信。
【案2】観光地化と伝統文化の両立 伝統文化を売りにして観光地化。ご当地アイドルが発信。文化体験・エコツーリズムを入れる。
【案3】観光地化と農業の両立 農業を通年、観光は半年間。観光で得た利益を環境保持に活用、村全体で分けあう。

【問2】 「グローバル市民」とは、どのような人物か。

	授業実施前	授業実施後
生徒 A	地域差による文化の違いを理解している人。	立てた目標のために、具体的な目標達成への道のりを考えられる人のことであり、柔軟な頭をもち、そこに求められている事への解決策をひらめくことのできる人。
生徒 B	様々な国の文化や考えを理解して協力が出来る人。貧困や災害の時、助けあう精神を持っている人。	貧困や環境問題などに苦しむ人は世界にたくさんいるが、ほとんどの人はそのことを分かっても動こうとしない。そんな時にそれに気が付いて行動を起こせる人。
生徒 C	地球規模で物事を理解する能力がある人。	「グローバル市民」とは、何かを特別に実行、指揮している人ではなく、SDGsのような誰一人取り残さない地球上の全員で果たすべき目標を理解し、行動している人。
生徒 D	一つの文化や主義主張にこだわらない人。一部の人を差別しないような人。	自分の行動によって利益を得る人、不利益を被る人を考え、地球上に住む全員が公平に利益を得られるように、自然保護、経済格差など、様々な視点から将来的に全員が幸福になれる道を探す人。

【問3】 学習全体を通して、あなたが感じたこと、考えたことを述べよ。

国の代表者だけでなく、市民一人一人がグローバルな視点をもって生活することが重要なのだと思った。
私の班は、景観を守るために看板を“減らす”という考えになったが、減らすのではなく、あくまである物をどう工夫して“利用する”かという考えが他の班から出て、持続可能ってそういうことかもしれないと感じた。
全員の意見を反映させて、利益が減るのは仕方がないと思った。
対立している意見、どちらとも尊重することがこんなにも難しいことなんだなと実感しました。私は委員会でみんなの意見をまとめる立場なので、今日学んだことを生かしたいです。
観光客(消費者)の目がどこに向けられるのかによって、現地の環境が変わってしまう気がした。
何かを優先させると、他の何かが必要なくなり、結局誰かが我慢することになる。そのジレンマがもどかしかった。自分だけを考えるのではなく、立場の異なる人と協議し、「見えない誰か」のことも考えられる人になりたい。

【問4】 シンガポール修学旅行を終えて、あなたが感じたこと、考えたことを述べよ。

ガイドブックやネットでは分からないことを現地に行ってみて見つけられてよかった。
日本より進んでいるイメージだったけれど、そうでない部分も感じた。特に、経済的弱者に対する不平等感があって、それがグローバルスタンダードなのだとしたら、おかしいと思った。

8 授業実践全体の成果と課題及び課題の改善策

〈成果〉

授業にあたり、グローバル化の説明として教科書の記述を参照した。そこでは、「経済、政治、文化、環境問題などが地球規模で互いに影響し合う現象」と説明があった。生徒に授業実施前「グローバル市民」とはどのような人物か【問2】を発問したところ、「異文化理解」「国際援助」という印象を持っている生徒が多いことがわかった。どこか遠い場所で生じている事象について、第三者的な視点からグローバル化を理解していた。授業実施後、再度同じ発問をしたところ、生徒の記述からは、「目標達成への道のり(=持続可能性)」「理解を行動に移せる(=行動力)」「全員が理解・行動している(=主体性)」「全員が幸福になれる(=公平性)」といった点を踏まえている記述が散見された。当事者として関与している、参加していきたいという意識の変化が見て取れる。

【問1】について、観光業の継続に否定的な意見はほとんど無く、経済的な発展を肯定的に捉える生徒がほとんどだった。そのため、経済面・環境面・文化面のバランスをいかに保つか、という視点で話し合いが進んでいた。所得減少や格差に対して問題意識を持つ生徒が多く、村内部での格差の是正、富の分配、宿泊費値上げなどの所得向上策のアイデアが見られた。一方で、文化面や環境面に目を向けることに困難を感じる生徒が多くいた。文化面では、村の人々に働きかけをする視点より、観光客への働きかけを行う視点に偏っていた。環境面では、観光客のゴミ問題を、ゴミ処理施設の建設で解決を目指す、他国で処理するなど、短絡的な思考が見られた。人間の生活領域に留まらず、生物全体の持続可能性を考慮する見方まで考えられるよう今後生徒に投げかけたい。グローバルな視点を持つということに対し、「他国の出来事」「リーダーが決めること」「海外に行かないと分からないこと」と捉えていた生徒も、今回の授業を通じて、「市民レベルで生じる価値対立」を「自分事」として捉えコミットしていく姿勢を見せる生徒が多く見られた。観光客として海外に足を踏み入れる機会が多い生徒にとっては、観光客が現地に与える影響がいかに大きいものなのか、現地側の視点で考えさせる良いきっかけとなった。授業実施後、修学旅行で訪れたシンガポールでは、観光都市として発展する「光」の部分だけを見るのではなく、「影」で生まれている格差、不平等にも目を向ける生徒がいた。こうした差異を単なる他国の出来事として看過するのではなく、自分たちの住む世界とリンクさせて考えていく姿勢をこれからも育てていきたい。また、自分の立場を力技で押し通すことではなく、互いの立場を尊重しながら合理的な妥協点をじっくりと見つけだす学習プロセスは、生徒にとって「もどかしさ」「歯がゆさ」が生まれた。その「もどかしさ」こそ、複雑な事象が絡み合うグローバル化が直面している現在進行形の課題を解決していこうという主体的な問題意識へと繋がっていくと信じている。

〈課題〉

派遣前には、ベトナムの都市部と農村部の格差に着目させ、日本でも同様の問題が生じている現状に気づききっかけとなるような授業を構想していた。しかし、実際にベトナムに足を踏み入れてみると、農村部でもインフラが整備（電線、Free Wi-fi、学校校舎）がされており、家電や移動手段もあまり変わらず、都市/農村という二元的な見方に落とし込むのは困難であると感じた。そこで、研修中に特に印象に残った枯葉剤被害の子どもたちの療育を行うツーズー病院平和村でのドクさんのお話から、戦争が風化していく現在に危機感を抱き、戦争を題材とした教材を選び、研修で得た資料や写真を織り込むこととした。その発展的な学習として、グローバル化と観光業のもたらす影響を考えさせる小単元を設定したが、授業の主軸がぶれてしまい、焦点がぼやけてしまったことが最大の反省点である。

また、生徒のクリエイティブな発想を生かしきれず、教員の一方的な説明が多くなってしまったところも、今後の授業実践での反省点として改善していきたい。

9 教師海外研修に参加して

研修全体を通じて、教師としてはもちろんのこと、一人の人間として、様々なものを見て、多様な人々と出会い、今まで持っていた価値観を揺さぶられ、その正しさを考えさせられる毎日だった。ベトナムの「家族との時間を大切にしたい」という幸福観に触れ、日本に住む私たちの幸福観を問い直すきっかけにもなった。地域社会や家族の生活を向上させたいという熱意を持って技術や語学を学ぶ現地の人々の真摯なまなざし、学ぶことを楽しみ「もっと勉強をして夢を叶えたい」ときらきらとした瞳で語る子どもたち。こうした願いを実現できる世界を共に作っていくことが、私たち「グローバル市民」の使命なのだと感じた。また、ベトナムの未来のために、懸命に知恵を絞り、現地の人たちと協働して働いている人々と出会えたことは、大きな喜びであり私の財産となった。授業実践以外のホームルーム活動では、国際協力の現場で働く人（大使館職員、JICA 職員、青年海外協力隊、現地日本企業）のインタビュー映像を紹介し、多様な幸福観、労働観に触れて、生徒が将来大切にしたい価値観を問うた。物資の援助だけでなく、技術移転や人材交流に力を入れ、現地の人たちとじっくりと向き合い、数十年先まで見据えてベトナムに根付くやり方を模索する現場人の姿に感銘を受けた生徒が多く、「自分の得意分野を生かしたキャリアを積んで、青年海外協力隊になりたい」と意気込む声も聞えた。

持続可能な国際協力を築くのは、人の力である。物事を一つの見方だけで判断せず他者の視点に立ち、寄り添いながら誰一人取り残さない姿勢を持つ人を育てていくことこそ、私たち教員にできる国際協力だと感じた。今後、貧困問題、格差是正など、未だ正解の見つかっていないグローバルイシューを、生徒と共にねばり強く考え、世界の人々と共に解決へ向かっていけるような、そんな教育活動を展開していきたい。